

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：34301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00069

研究課題名（和文）中国唐代・道綽浄土思想の基礎的研究

研究課題名（英文）Basic Research on Daochuo's Pure Land Thought in Tang China

研究代表者

Conway Michael (Conway, Michael)

大谷大学・文学部・准教授

研究者番号：70549526

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：道綽は、中国の唐代に活躍し、東アジアにおいて浄土教が広く信仰されるようになったことに大きな貢献をした。教義の形成過程における道綽の貢献について、古くから日本の浄土宗と浄土真宗の学僧が研究を重ねてきており、多くの成果を上げたが、各宗の宗学以外の立場から、隋・唐代における道綽の位置付けと影響を調査し、明らかにした研究が極めて少ない。

本研究プロジェクトでは、道綽の思想が多角的に研究されるための基礎資料を収集し、広く共有される準備を行った。唐代に流布した『安楽集』のテキストに最も近い形の和文と英文の訳注を作成し、道綽の思想の背景と意義を多様な視点から究明する研究を進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、今後の道綽に関する研究の基礎的な資料を提供するため、20世紀の後半に長らく続いていた停滞の状況を打破し、道綽の歴史的意義をより正確にかつ鮮やかに把握するための第一歩である。唐代から難解とされてきた『安楽集』に対する詳細な訳注を作成することによって、浄土教宗学の専門家以外の研究者による研究の可能性を開いた。また浄土宗・浄土真宗の宗学の専門家に加えて、隣接する研究分野の研究者が道綽の時代背景および思想の意義について研究発表を行うことによって、その意義の一端を示したと同時に、更なる研究の可能性を示唆した。そして研究史を整理し、網羅的に目録を作成し、関係資料を収集した。

研究成果の概要（英文）： Daochuo played a critical role in the spread of Pure Land devotion in East Asia. Although there is much research that attempts to clarify the significance of his thought in the history of the development of the doctrinal positions of the Pure Land and True Pure Land Schools in Japan, there has been very little research that attempts to evaluate Daochuo's position and the role that he played in the Buddhism of the Sui and Tang Dynasties in China.

This research project collected and prepared the basic research materials that will be necessary in order to conduct research about this aspect of the nature and influence Daochuo's thought from this perspective. We began creating a detailed annotated translation of Daochuo's Anleji based on the texts that appear to be the closest to the form that circulated in Tang China and also conducted research that clarified the background and significance of Daochuo's thought from a variety of academic perspectives.

研究分野：真宗学

キーワード：道綽 『安楽集』 浄土教 中国・唐代

1. 研究開始当初の背景

道綽は、中国の隋・唐代における浄土教の飛躍的普及に際して重要な役割を果たし、その後の東アジアにおける浄土教信仰に多大な影響を及ぼした。その影響に関する今までの研究の大半は、日本の浄土宗および浄土真宗の学僧によって行われてきたため、各宗の教義形成の過程における道綽の意義は十分に明らかにされてきたが、中国の隋・唐代における道綽の影響および意義を正確に捉えているとは言えない。

また、道綽の主著『安楽集』は、唐代から読みにくいとされてきた。その上、今までの道綽に関する研究は、各宗の宗学の用語および分析概念が多用されており、浄土教学の専門的な知識がなければ、理解が極めて困難であった。そのため、隣接する分野の研究者が道綽教学の意義と影響に関する研究に着手することが難しく、一種の停滞の状況が続いていた。

2. 研究の目的

本研究プロジェクトは、その停滞状態を破り、道綽の歴史的意義について、多くの研究分野の研究者によって多角的に捉えられるための基礎を築くことを目的としている。その目的を果たすためには、具体的に、以下の三つの成果物を作成することとした。

() 『安楽集』の和文と英文の訳注：浄土教の専門家ではない研究者が参照できるテキストを提供するために、『安楽集』のテキストを確定した上で、その内容を、平易な日本語と英語に現代語訳することとした。『安楽集』上巻の和文と英文の現代語訳を作成し、今後刊行予定の書籍の草稿を作成している。

() 道綽の歴史的意義を多角的に解明する論文集：道綽とその『安楽集』がその時代においてより鮮やかに捉えられるようにするために、真宗学・浄土宗学に加えて、仏教学・歴史学・美術史学等の様々な分野で活躍している研究者に執筆依頼し、論文集を刊行することとした。

() 道綽研究基礎資料データベースの開設：日本において道綽に関する研究の蓄積は、浄土宗の良忠(1199年~1287年)の『安楽集私記』から出発し、江戸期において真宗の学僧によって多数の講義録が作られた。また近代に入ってから、道綽とその『安楽集』を主題とする研究書と論文は発行され続け、800点ほどに上っている。本研究プロジェクトにおいて今後、道綽研究が進められるための基礎資料を広くインターネット上に共有するため、講義録と研究書・論文を網羅的に収集し、PDF化した。

3. 研究の方法

上記の三点を作成するために、資料調査・収集を行ったと共に、定期的に研究会を開催した。

() 『安楽集』の和文と英文の訳注：日本語と英語による現代語訳を作成するために、『安楽集』の古写本・古刊本を能う限り収集した。そして、研究代表者・研究分担者・研究協力者による研究会を定期的に開催し、丁寧な校勘を行い、テキスト確定をした上で、両国語の現代語訳を作成する作業に取り組んだ。研究期間を通じて、訳注の作成に向けた研究会を計60回開催した。2022年8月には、3日間の集中作業も行った。

() 道綽の歴史的意義を多角的に解明する論文集：道綽の歴史的意義を様々な角度から明確にするために、多様な分野を専門とする研究者を招聘し、それぞれの立場から、道綽の思想の背景、そして及ぼした影響および歴史的意義に関する研究について、公開研究会を行った。研究期間を通じて、計14回開催し、対面参加に加えて、オンライン会議ソフトを導入し、多くの研究者が参加できるようにした。研究会の議論を踏まえて修正した原稿を集めて、論文集を刊行する予定である。

() 道綽研究基礎資料データベースの開設：鎌倉期以来、日本において作られた『安楽集』の研究書を網羅的に収集するための資料調査を行った上で、複写およびPDF化を進めた。大谷大学・龍谷大学・佛教大学・大正大学に所蔵されている近世の『安楽集』注釈書を調査し、その目録を作成し、複写した。また研究論文を網羅的に把握するために印度学仏教会の検索サイトおよびCiNiiを駆使して、道綽と『安楽集』に関係する研究論文の目録を作成し、その複写をした。今後、インターネット上で共有することを視野に入れて、複写した文献をPDF化し、研究分担者・研究協力者と共有した。なお、講義録・研究論文いずれも著作権等の問題がないよう手続きを進めている。

4. 研究成果

研究期間を通して、上記の三つの成果物の発表に向けて作業を進め、以下の通りの成果を達成した。

() 『安楽集』の和文と英文の訳注：訳注の研究会を開催し、『安楽集』の古写本・古刊本の

校勘を行い、詳細な訳注を作成することを通して、以下の三点の成果が得られた。

A) **唐代に流布した『安楽集』のテキスト復元**：鎌倉時代の中期以前に作られた現存の『安楽集』の古写本に類似性が高く、唐代に流布した『安楽集』のテキストに最も近い形になっていると考えられるが、校勘作業を通して、鎌倉期に『安楽集』が開版された際に大幅な編集が行われたことが判明した。そして従来、理解しづらいとされてきたいくつかの文章は、その編集の過程において理解しにくい形に改定されたことも明らかになった。最古の写本を底本とし、テキスト確定の際に最古層の写本を重要視することによって、これらの後世の内容改変を是正し、唐代に流布した『安楽集』により近いテキストを復元しつつある。

B) **難解とされてきた文章の解説**：道綽の没後間もない頃に書かれた『浄土論』において、『安楽集』の文章が難解であるという評がなされてから、『安楽集』の文体の問題が種々に指摘され、道綽の意図を読み取ることが困難であるとされてきた箇所が複数ある。A)のテキスト復元によってその問題が解消された箇所もあるが、研究会の議論を通じて、道綽の意図を明瞭に把握する解釈が提示された箇所もあった。

C) **『安楽集』上巻の訳注の草稿**：60回の研究会開催によって、日本語と英語による『安楽集』の詳細な訳注の刊行に向けて、上巻の内容に対して丁寧に検討を加え、草稿を完成した。

() **道綽の歴史的意義を多角的に解明する論文集**：公開研究会において、研究代表者・研究分担者を含む14名の研究者は、以下の主題に関して研究発表を行った。

- (1) マイケル・コンウェイ「『安楽集』における二諦論と浄土観について」
- (2) 落合俊典氏「野村美術館蔵高山寺旧蔵『安楽集』二巻の伝来について」
- (3) 西本照真氏「『安楽集』の三身三土義は道綽のオリジナルか？—『無量寿観経續述』の第九観仏身相好観との先後関係を中心として」
- (4) 齊藤隆信氏「佛教大学法然仏教学研究センター『安楽集』の訳註における訳註作業の現在」
- (5) 大内文雄氏「『安楽集』所引疑偽經典の諸問題」
- (6) 宮井里佳氏「道綽の「勸信求往」と浄土法会『浄土仏教の思想』第四巻「道綽の著作と思想」から四半世紀を経て」
- (7) 杉山裕俊氏「道綽の往生浄土説について『安楽集』における二諦説と有相・無相との関わりを中心に」
- (8) 大西磨希子氏「唐代西方浄土変と道綽」
- (9) 戸次顕彰氏「諸行の分類をめぐる隋代仏教の一側面 道宣の著作中に引用される『凡聖行法』とその意義」
- (10) 柴田泰山氏「道綽『安楽集』に関する研究方法について」
- (11) 成瀬隆純氏「道綽浄土教と『観念法門』の関係」
- (12) 辻本俊郎氏「道綽『安楽集』テキストの流伝」
- (13) 田中無量氏「曇鸞から道綽への浄土思想の展開 羅什・僧肇の般若思想を視座として」
- (14) 櫻井唯氏「『聖道』の実践とその超克」

以上の研究発表を通して、道綽の浄土思想の背景とその受容過程について多様な視点から明らかにすることができた。また、道綽の思想の根幹をなす教相判釈において、「聖道門」とされる当時の他の仏教者が提唱された実践論の一端をも明らかにすることができた。

これらの発表内容を更に充実させた上で、論文集を刊行する予定である。

() **道綽研究基礎資料データベースの開設**：道綽とその『安楽集』の研究史を網羅的に把握するための資料調査を行うことを通して、以下の二点の成果が得られた。

A) **近世以前の『安楽集』注釈書の目録作成とPDF化**：『安楽集私記』に始まる日本の『安楽集』研究史を調査し、大谷大学・龍谷大学・佛教大学・大正大学に所蔵されている注釈書および講義録の目録を作成した。そして、近代において再版されなかったものに関して、複写し、PDF化をした。この調査を通して、近世に最も参照された真宗系の『安楽集』の注釈書が『真宗全書』や『真宗大系』などの叢書類に収められていないということが判明し、近世における『安楽集』の受容形態について正確に把握するために、これらの資料の公開が必要であるということが顕かとなった。また、上記の宗門系大学の図書館以外に『安楽集』の注釈書が散在しており、近世における『安楽集』の注釈史の全貌を明らかにするために、江戸期の学僧が住持していた寺院の資料調査が必要であるということも明らかになった。

B) **20世紀以降の道綽・『安楽集』関連研究論文目録作成とPDF化**：近代に入ってから、道綽と『安楽集』に関する研究が進められてきたが、20世紀に入ってから、道綽を主題とする研究書は少なく、その大半の成果は雑誌論文として、様々な学術誌に点在している。今後の研究者がその全貌が把握できるように、詳細な目録を作成した。そして容易に研究に活用できるようにPDF化を進め、800点近くの論文のPDFを作成した。

これらのPDFをインターネット上に公開するために著作者や所蔵者の許可が必要であるため、手続きをしている。今後、道綽の研究に取り組もうとしている研究者に資するよう公開していく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 齊藤隆信・曾和義宏・加藤弘孝・永田真隆・小川法道	4. 巻 8
2. 論文標題 「『安楽集』 訳註（五）第七大門・第八大門・第九大門・第十大門・第十一大門・第十二大門」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『佛教大学法然仏教学研究センター紀要』	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 宮井里佳	4. 巻 20
2. 論文標題 「道緯『安楽集』第三大門第一に関する覚書 「起心立徳 修諸行業」という「自力」 」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『埼玉工業大学 先端科学研究所アニュアルレポート』	6. 最初と最後の頁 15-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大西磨希子	4. 巻 24
2. 論文標題 「儀鳳年間の舍利頒布（武則天とその時代2020年度秋期シンポジウム特集）」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『唐代史研究』	6. 最初と最後の頁 3-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大西磨希子	4. 巻 37
2. 論文標題 「武則天與阿育王 儀鳳年間舍利頒布與《大雲經疏》」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『古今論衡』	6. 最初と最後の頁 57-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 大西磨希子	4. 巻 1511
2. 論文標題 「禅林寺本當麻曼荼羅（特輯永觀堂禅林寺）」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『國華』	6. 最初と最後の頁 54-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤隆信・曾和義宏・加藤弘孝・永田真隆・小川法道	4. 巻 7
2. 論文標題 「『安楽集』訳註（四）第四大門・第五大門・第六大門」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『法然仏教学研究センター紀要』	6. 最初と最後の頁 1-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大西磨希子	4. 巻 2020年上半年（総15輯）
2. 論文標題 「棺槨形制舍利容器的伝播与武則天」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『形象史学』	6. 最初と最後の頁 51-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 大西磨希子	4. 巻 5
2. 論文標題 「初唐時期西方浄土变与《觀無量寿經》」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『絲綢之路研究集刊』	6. 最初と最後の頁 195-223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 齊藤隆信・曾和義宏・加藤弘孝・永田真隆・小川法道	4. 巻 6
2. 論文標題 『安楽集』訳註(三) 第三大門	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『佛教大学法然仏教学研究センター紀要』	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大西磨希子	4. 巻 14
2. 論文標題 則天武后と阿育王 儀鳳年間の舍利頒布と『大雲經疏』をめぐる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『敦煌写本研究年報』	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮井里佳	4. 巻 2022年
2. 論文標題 法然の学んだこと - 中国における浄土の教えと実践 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『科学と仏教思想』[宮澤正順先生頌寿記念論集]	6. 最初と最後の頁 31-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西磨希子著譯、李孝峰譯	4. 巻 第八輯
2. 論文標題 綴織當麻曼荼羅與唐王朝 敦煌發現的宮廷寫經與諸州官寺制度	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『絲綢之路研究集刊』	6. 最初と最後の頁 223-239
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計22件（うち招待講演 11件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 大西磨希子
2. 発表標題 「五月一日経『宝雨経』補正 書写次第の再検討」
3. 学会等名 2021年中国中世写本研究夏季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大西磨希子
2. 発表標題 「佛教藝術與世俗統治 敦煌彌勒變相的演變與武則天」
3. 学会等名 「東亞文獻與文學中的佛教世界」學術研討會 「東亞佛教藝術史」分科會（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大西磨希子
2. 発表標題 「「見える」浄土を「観る」 唐代西方浄土変と道綽」
3. 学会等名 「見えるもの」や「見えないもの」に関わる 東アジアの文化や芸術についての学際的な研究 2020年度第1回研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大西磨希子
2. 発表標題 「唐代西方浄土変と道綽」
3. 学会等名 大谷大学真宗総合研究所 「一般研究」コンウェイ班 公開研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大西磨希子
2. 発表標題 「儀鳳年間の舍利頒賜 則天武後の仏教事業に関する一考察」
3. 学会等名 2020年度 唐代史研究会 秋期シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Conway Michael
2. 発表標題 「隋・唐初期における仏身仏土論と法界概念について」
3. 学会等名 「dharma-dhatu (法界) 概念の研究 初期大乘經典・古訳の分析を中心として」研究会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Conway Michael
2. 発表標題 「綽空時代の学び 親鸞の思想形成における道綽の影響について」
3. 学会等名 大谷大学真宗学会例会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Conway Michael
2. 発表標題 『安楽集』における二諦論と浄土観について
3. 学会等名 大谷大学真宗総合研究所 「一般研究」コンウェイ班 公開研究会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西本照真
2. 発表標題 『安楽集』の三身三土義は道綽のオリジナルか？ 『無量寿観経續述』の第九観仏身相好観との先後関係を中心として
3. 学会等名 大谷大学真宗総合研究所 「一般研究」コンウェイ班 公開研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齊藤隆信
2. 発表標題 佛教大学法然仏教学研究センター 『安楽集』の訳註 における訳註作業の現在
3. 学会等名 大谷大学真宗総合研究所 「一般研究」コンウェイ班 公開研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大内文雄
2. 発表標題 『安楽集』所引疑偽經典の諸問題
3. 学会等名 大谷大学真宗総合研究所 「一般研究」コンウェイ班 公開研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮井里佳
2. 発表標題 道綽の「勸信求往」と浄土法会 『浄土仏教の思想』第四巻「道綽の著作と思想」から四半世紀を経て
3. 学会等名 大谷大学真宗総合研究所 「一般研究」コンウェイ班 公開研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大西磨希子
2. 発表標題 武則天的舍利信仰與《大雲經疏》
3. 学会等名 International Conference on Dunhuang Studies, Cambridge 2019 (國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大西磨希子
2. 発表標題 則天武后の舍利頒布とその意義
3. 学会等名 2019年中國中世寫本研究夏季大會
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大西磨希子
2. 発表標題 武則天的舍利頒布與《大雲經疏》
3. 学会等名 第13屆通俗文學與雅正文學--文學與信仰國際學術研討會 (國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大西磨希子
2. 発表標題 金棺銀槨形制舍利容器的傳播
3. 学会等名 形象史学与燕趙文化国际學術研討会 (國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大西磨希子
2. 発表標題 金棺銀槨形舍利容器與武則天
3. 学会等名 漢學與東亞文化國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大西磨希子
2. 発表標題 衆生はどこにいるか 唐代仏教美術における空間認識と表現
3. 学会等名 日本佛教学会第91回（2022年度）学术大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大西磨希子
2. 発表標題 棺槨形舍利容器と則天武后 金棺銀槨の創始と流布
3. 学会等名 第72回佛教史學會学术大会大会シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齊藤隆信
2. 発表標題 中国浄土教における展開
3. 学会等名 浄土宗鳥取教区普通講習会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齊藤隆信
2. 発表標題 中国初期浄土教～とくに曇鸞と道綽の浄土教～
3. 学会等名 浄土宗熊本教区普通講習会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Michael Conway
2. 発表標題 The Role of the Two Truths in Daochuo 's Understanding of the Pure Land
3. 学会等名 The International Association of Buddhist Studies XIXth Congress (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 齊藤 隆信	4. 発行年 2022年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 664
3. 書名 隋東都洛陽上林園翻經館沙門 釈彦琮の研究	

1. 著者名 氣賀澤保規編、川本芳昭、夏炎、佐藤文子、速水大、竹内洋介、松本保宣、榎本淳一、宮嶋純子、孫英剛、北村一仁、毛陽光、大西磨希子、王慶衛、雷聞、黄ショウ	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 392
3. 書名 隋唐洛陽と東アジア：洛陽学の新天地	

1. 著者名 Masahiro Shimoda, Junkichi Imanishi, Akihiro Oda, Akio Minoura, Gyula Wojtilla, Takami Inoue, Zsoka Gelle, Makio Ueno, Takeshi Kaku, Imre Hamar, Robert F. Rhodes, Michael Conway, Monika Kiss, Myoshin Fujitake, Masafumi Fujimoto	4. 発行年 2021年
2. 出版社 The Shin Buddhist Comprehensive Research Institute, Otani University	5. 総ページ数 228
3. 書名 The Buddha's Words and Their Interpretations	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大西 磨希子 (Onishi Makiko) (00413930)	佛教大学・仏教学部・教授 (34314)	
研究分担者	齊藤 隆信 (Saito Takanobu) (20367981)	佛教大学・仏教学部・教授 (34314)	
研究分担者	大内 文雄 (Ouchi Fumio) (50103114)	大谷大学・文学部・名誉教授 (34301)	
研究分担者	西本 照真 (Nishimoto Teruma) (50298022)	武蔵野大学・アントレプレナーシップ学部・教授 (32680)	
研究分担者	宮井 里佳 (Miyai Rika) (80290998)	埼玉工業大学・人間社会学部・教授 (32410)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------